



学園だより

This Student Information Booklet contains a variety of useful information for Nagoya University students, including on-campus news as well as extracurricular activities.

vol.167

2016.3

CONTENTS

コラム / 卒業生・修了生の学生生活の思い出文集 / 特集① 平成27年度名古屋大学体育会会長表彰式
 特集② 第56回体育会リーダーズ・アセンブリー / クラブ活動 / トピックス / 教育推進部の窓 / 災害対策 / 伝言板

COLUMN

安定は動の中に在り

名古屋大学総長 松尾 清一

日本では、春は旅立ちの季節です。多くの人がそれまでの仕事や人生に区切りをつけ、新しいステージに旅立っていきます。名古屋大学でも、3月には多くの卒業生を送り出し、4月には新入生を迎えます。また卒業生や新入生でなくとも、教職員や学生の多くが、年度が替わることにより、新たな課題に直面することになります。人生において、このような区切りの時期があるということは極めて大切で、成功や失敗、努力して得た知識や体験、そしてまた鍛錬により培ってきた精神力など、これまでの自分を振り返りつつ、未来に向けて心機一転、チャレンジしてゆこうという心構えを持つ時期だと思います。

名古屋大学は伝統に培われた自由闊達な環境のもと、社会貢献の高い志と確かな専門性に裏打ちされ、社会の様々な領域で国際的なリーダーシップを発揮できる人材の育成、を目指しています。特に若い世代に伝えたいことは、「自分たち一人一人が未来の日本や世界を作る原動力になる」ということを、しっかりと自覚してほしいということです。日々のニュースでも伝えられているように、現代社会はたいへん不安定であり、人類社会の持続的発展と幸福の実現のために解決すべき多くの課題を抱えています。自分は将来に向かってどのような目標をもって人生を歩んでゆくのかわかり、思いをいたしてほしいと思います。

春はまた、出会いの季節でもあります。新しい環境で、多くの人と出会う機会が多い季節です。名古屋大学のキャンパスはまた、国際性や多様性が特徴です。このような環境の中で、多くの新しい出会いがあると思います。しっかりと人間関係を築けば、何物にも替え難い一生の宝物になります。

人生の区切りの時期にあたって、積極的にできるだけ多くの経験をするを恐れなくてください。私の座右の銘としている言葉に、「安定は動の中に在り」があります。前に進もうとする姿勢が、まわりの風景を違ったものにするでしょう。そしてまた、チャレンジする課題が見つかると思います。多少の失敗をしてもくじけず足を前に出せば、やがて自分の道が見えてくるものだと思います。新しい区切りの時期に、果敢に歩もうとするすべての皆さんに、心から期待しています。

卒業生・修了生の学生生活の思い出文集



『多くの出会いに感謝』

文学部4年 加藤 優

高校生のとき、オープンキャンパスで初めて文学部の言語学研究室を訪れ、見たこともないような言語の辞書がびっしりと並ぶ本棚に魅了されました。それから月日が流れ、名古屋大学文学部で言語学を専攻し、卒業を迎えることはとても感慨深いです。

学生生活で特に印象深かったことは、いくつかの国際交流活動と3年次における10ヶ月間の交換留学です。これらの出来事で多くの人との出会いがあり、様々なものの見方や考え方があることを知り、この4年間で私の視野はかなり広がったように思います。

国際交流活動の始まりは留学生の入寮のサポートや留学生との交流を目的としたイベントの企画でした。各国の留学生との交流をする中で個人が話す日本語・英語は異なるにも関わらず通じ合える喜びを感じたのと同時に、理解し合える不思議に興味を湧きました。

それからは言語による意思疎通の正確さを求めるようになり、自身の語学力向上のためモナシュ短期語学研修に参加し、留学生のチューター活動などへと活動の幅を広げました。

交換留学はアメリカのケンタッキー大学で過ごしました。留学初日にかつて名大の留学生だった仲間が温かく迎えてくれました。その瞬間、名大での彼らとの出会いに感謝し、今までにない感動を覚えました。

現地の授業では学生たちは次々と発言し、納得するまで先生の意見を求めていて、彼らの積極的な態度はかなり刺激的でした。そのため、グループワークの際は日本にいるとき以上に積極性を意識したので、新たな環境に飛び込む度胸や自信が付きました。また言語学を専門とする学生との交流で自らの専門をより深く学びたいと思うようになりました。さらに周囲の学生たちと将来の悩みや夢を語ったり、自身の将来を考えたりする中で、この交換留学はじっくり自分自身と向き合うことのできた貴重な時間になったと思っています。

そして留学生の立場としてアメリカの文化を知ると同時に、自分の生まれ育った日本を客観的に捉え、その素晴らしさに改めて気づくことができました。

これまでの活動を通して、出会いそして繋がってきた人たちからは本当にたくさんを感じ、学びました。また多くの場面で先生方にはお世話になりました。そして何より、いつも私の挑戦を応援し最後の一押しをしてくれた家族には感謝の思いでいっぱいです。卒業後もひとつひとつの出会いを大切に自分を成長させていきたいと思っています。



(筆者・右端)



『かけがえのない4年間』

教育学部4年 石井 照寿

名古屋大学で学んだ4年間は長いようで短いようなあっという間の4年間でした。名古屋大学に入学して多くの人と出会い、さまざまなことを経験し、充実した日々を送ることができました。

私は入学してから3年の夏まで名大祭本部実行委員会に所属していました。2年時には企画を担当し3年時には副委員長をつとめました。自分の学部以外のほかの学部の学生とも活動するため交流が広がり、同期だけではなく先輩後輩を含めてたくさんの良き仲間にも恵まれたと思います。

2年時の企画では講演会と子ども向けの実験企画に携わりました。企画立案から広報、当日の運営まで8か月かけて準備をしました。講演者への依頼やポスター製作、実験企画の準備等先輩方に指導していただきながら、仲間と協力しあい準備を行いました。他者と協力しながら一つのものを作り上げていく過程には困難もありましたがそれ自体も自分にとって学びとなりました。

3年生になり副委員長として主に財務を担当し予算や決算に携わりました。予算編成では一つの立場に立つことなくさまざまな角度から物事を考える機会となり、責任は重かったですが貴重な経験となりました。また、当日は運営本部に常駐し、トラブル等の対応を行いました。名大祭期間中は多くの人に支えられて運営されていると感じ、最終日を無事に終えて撤収が終わるころにはほっとした気持ちとやりきった達成感がありました。名大祭での経験は普通の大学生活では経験することができないようなことばかりでやりがいがあり、自分を大きく成長させてくれたと思います。

実行委員会では大変なこともありましたが良い先輩や頼れる仲間にも恵まれて無事に名大祭を成功することができました。今年度で56回を迎えた名大祭ですが今後60回、70回、100回と末永く続いてほしいと思います。

そして私自身4月からは社会人として人生の次のステップに進みます。大きく環境が変わり期待と不安でいっぱいですが、名古屋大学で過ごした4年間の貴重な経験を活かしていきたいです。最後に先生方、両親、友人、先輩や後輩、名古屋大学で関わった全ての方々への感謝の気持ちを忘れずに社会人として一步一步前に進んでいきたいと思っています。



卒業生・修了生の学生生活の思い出文集



『海外で得た経験』

情報文化学部 4年 菊池 達也

5年前、名古屋大学の入学式にて濱口前総長が「海外に行きなさい」と力説されていたのが非常に印象的でした。そして5年経った今、その大切さを心から感じています。

私は大学3年生の時に、大学の交換留学プログラムを利用してカナダのトロント大学で1年間学びました。授業の多くにディスカッションやディバートの授業が組み込まれていましたが、留学当初はほとんど発言することが出来ず、非常に恥ずかしい思いをしました。原因は単純に英語力の差だけではなく、そもそも自分の意見を持っていなかったことや、論理的な主張が出来るだけの知識や情報量が不足していたことにありました。授業前の事前課題の重要性を認識し、論文の読み込みや下調べに多くの時間を割いたことで、帰国前までには周りの学生に交ざってごく自然に議論を進められるようになりました。

大学4年生の時には、ベトナムのハノイにて2ヶ月間のインターンシップに参加しました。ヨーロッパやアフリカから来た他のインターン生と過ごした日々は、まさに波乱万丈の一言。自分の思っている「常識」など通じるはずもなく、意思疎通がうまくいかずに戸惑うことが沢山ありました。そんな中で多様な価値観を受け入れながらお互いを理解し合い、同じ目標に向かって走った日々は何にも代え難い経験となりました。

こういった海外での経験によって、自分の知見を広がただけでなく、母国語でなくても自分の意見を発信・主張したりする度胸や、違いを受け入れる寛大さが身についたように感じます。そして、昨年11月に出場した「第4回全国学生英語プレゼンテーションコンテスト」では、最優秀賞である文部科学大臣賞を受賞することができ、今までの大学での活動の集大成ともいえるプレゼンテーションをすることができました。

卒業後は商社に就職し、社会人としての人生の一步を踏み出します。辛いことの方が多いかもかもしれませんが、今までの経験を糧にさらなる高みを目指して精進していこうと思います。



〈筆者・右〉



『大切な時間』

理学部 4年 山澤 正弥

私は、自由奔放やりたいことをやりたいように日々を過ごした。この大学生活における4年間は、自己認識を深める期間となった。ここで述べる自己認識とは、自身の在り方、考え方についてである。正直な話、高校生の段階では、流されるまま「優秀な人材となるべき」としか考えてはいなかった。ただ漠然と、良い大学、良い就職を目標としていた。名古屋大学の理学部に入学し、最初の分岐点は学科選択であった。学科選択のときは、就職に有利と考え、化学科にした。2、3年と化学科で学問を学ぶと共に、実際に行動を伴う実験を通して化学という学問に惹かれていくのは時間の問題であった。この頃から、自己認識に関して、それまでとは異なる指針が芽生えた。自分の中で、特に大きな変化あるいは「革命」が起きたのは、研究室配属のときである。その際、ある研究者は、『“Vitality” 溢れるものこそ我が研究室へ』との旨を述べた。そこで、私は求められる人材は単に成績優秀なだけではなく、活力を持つ人ではないかと、否が応でも考えさせられることとなった。その解を求めるべく、その研究室への配属を希望した。その後、研究生活を通して、その研究者の姿勢、また、同研究室の先輩の姿が目に焼き付くと、やはり、活力が重要と気づかされることになる。それからの私は、自身の研究に邁進でき、今までに感じることはない有意義な時間を過ごすことができた。自由気ままに過ごしてきた私でも、この時間が大切であると思うことができた。私の好きな言葉にMahatma Gandhiの“Man lives freely only by his readiness to die.”がある。この4年間の想いと共に私の解釈を加え、最後に一言述べさせて頂くとすれば“終わるも続けるも己の人生、活力で我が道をゆけ”、この考え方がこれからの私の指針となった。



〈筆者・最前列左〉

卒業生・修了生の学生生活の思い出文集



『2年間の挑戦』

国際開発研究科 M2 清原 崇広

名古屋での大学院生活は、学内でも学外でも新たなことへの挑戦の連続であった。九州の大学を卒業した私は、以前より興味があった国際開発について学ぶために、名古屋大学大学院に進学する決断をした。新たな場所での修士課程が始まった。大学時代の専攻は、英語。全く異なる分野の大学院に飛び込んだ。大学院での授業は全て英語だったが、それよりも、新たな分野の修士レベルの専門的な内容を理解し身につけていくことは多大な努力を要した。課題を読むのも人よりも何倍もの時間がかかり、レポート作成も無い知識を埋めるべく何倍もの文献を調べる必要があった。一方で、カンボジアでの研修にも参加し、途上国の実情を調査するとともに、多国籍なチームでひとつの課題を成し遂げる経験もした。周り自分とのギャップを埋めるのに必死になっているうちに、2年間はあっという間に過ぎた。そして、決して満足できる内容とは言えないが、先生とゼミのメンバーに支えられて何とか修士論文を提出することができた。この2年間、ハイレベルな環境に囲まれ、この分野におけるいわば初心者だった私は、逆境を乗り越え困難に立ち向かう力がついたと思う。

学外においても新たなことへ挑戦した。名古屋大学や南山大学をはじめとする東海地域に、国際問題を扱うサークル『模擬国連』の名古屋支部を立ち上げた。模擬国連サークルとは、学生が1人1国、国連加盟国の大使になりきり、国際問題についてその国の立場から議論をするという活動を行う団体である。全国に支部があり、以前、九州支部での活動に参加していた私は、名古屋でもこのサークルを広めたいと考え、学部生を巻き込みながら設立に向けて奮闘していった。今では、20名程の学生が参加しているが、なにもない場所に、1から団体を創設していくのは容易ではなく、工夫と挑戦を繰り返した。例えば他支部の一般的な活動を名古屋に移植するだけでは人が集まらず、ワークショップやゲームなど「アクティビティを通して国際問題を学ぶ」という名古屋支部独特の活動体系を作り上げた。メンバーが活動している場面を見ると、なにもなかった場所に新たな人と人の縁を作り出したのだという達成感が満ち溢れる。

修了後は再び九州に戻り、就職する。これまで私は、アメリカ留学、カンボジアでの研修、そして名古屋での大学院進学など、地元九州から一歩踏み出した場所で挑戦・成長をしてきた。就職先は、自分のようにこれから新たな場所へ新たな機会を求めて挑戦する人を応援したいという思いで航空業界を選んだ。今は早く働きたいという思いで、気持ちがフライングしそうな勢いである。名古屋で学んだ、新たなことへチャレンジする事の大切さを忘れずに、活躍していきたい。



『楽しい留学生生活を振り返って』

国際言語文化研究科 M2 臧 哲

ほとんどの留学生と同じく、私も小さい時から日本のアニメの影響を受け、日本文化に興味を持つようになり、日本語を勉強しはじめました。大学の日本語科を卒業し、日本文化をより深く理解していきたいという思いが強く、日本へ留学することにしました。

日本へ来てから早いもので3年間もう経ちました。この間、いろいろな出来事がありましたが、一番印象深いのは、1回目の大学院入試に落ちたことです。中国では、進学試験の競争は余程激しいですが、私は、地元が一番いい中学校と高校に通って、最終的に理想の大学に進学することができました。進学の道にスムーズに行っていると言えます。だからこそ、1回目の大学院入学試験に落ちたことは、当時の私にとってはショックでした。ショックと同時に、自分自身の勉強不足も能力不足も確実に感じていました。一緒に日本へ来て、試験に落ちて帰国した人が何人もいましたが、私は諦めずに、1回目の失敗の経験を活かして、頑張って勉強して、結局無事に大学院に入ることができました。今振り返ってみると、それは失敗というより、やはり私に対する一種の試練だと考えられるでしょう。その時期の困難を乗り越えられたのは、貴重な経験として、一生の宝物となります。

大学院の2年間の間、研究の部分では、全力を尽くし、自分にとって良い結果ができたと思っています。一方、世界各地からの仲間ができており、それぞれの文化をお互いに理解し合うことを通して、視野を広げることができました。学生生活がそろそろ終わりますが、今までご指導くださった先生の方々、ずっと支えてくださった両親や仲間たちに対して、感謝の気持ちは「ありがとう」で済ませられません。これから、しばらく日本で働きますので、この感謝の気持ちを忘れず、社会に貢献できる人材になるように、努力し続けたいと思っています。また、留学生としての役割をきちんと果たし、日中友好に微力ながら貢献したいと思います。



〈筆者・右端〉

卒業生・修了生の学生生活の思い出文集



『7年間の留学生生活を振り返って』

環境学研究科 M2 董 春暁

私は日本へ留学してから、知らず知らずのうちに、もう7年間を過ごしました。私は情報文化学部を卒業してから環境学研究科へ進学したため、名古屋大学で計6年間を過ごしました。この6年間という名古屋大学の留学生活では、充実した時間があったという間に過ぎて、自分にとって貴重な体験であり、大きく成長できたと感じています。

私は大学入学と同時に一人暮らしを始めました。そのため、勉強やバイトで疲れているにもかかわらず、炊事、掃除といった家事を自分でやらなければなりません。最初、留学生として、日本語力に自信がなくて、家族や友人から離れて、日本人の友人もあまりいないし、大きな壁を感じていました。しかし、留学生交流活動やサークルに徐々に参加することがそのような私の考え方を変えるきっかけになりました。各国の方々との出会いがあり、友人になって、有意義な時間を過ごしました。

大学院に進学してから、研究室に配属された同期は少ないし、充実する学生生活を過ごすことができるかどうかと、少し不安だったのは今も忘れません。その時、研究室の先輩たちが非常に優しくしてくれ、食事などに誘ってくれ、修士論文の研究に対してたくさんアドバイスをいただくことができ、とても感謝しております。自分自身は旅行が大好きですので、この7年間で、先輩や友人と日本各地を観光して、北は北海道、南は沖縄まで行くことができました。現地の方との交流より、現地の文化や風土に触れることができ、非常に楽しんでいます。日本の文化などを知ることができたのと同時に、中国の食文化や風俗などを紹介してあげることもできました。

今後の進路として、私は日本の企業に入社する予定です。社会に出れば、日本人同士だけではなく、各国の人々と働き、7年間の留学生活で学んだ柔軟性と人間力を活かして、日本の企業でも活躍できるようにがんばりたいと思います。最後に、この貴重な留学生活体験を私に与えてくれた両親、先生、先輩、後輩、友人などさまざまな方に感謝しております。



『おかげおかげのげで生きる』

情報科学研究科 M2 島 かさね

名古屋大学には学部・修士で計6年間所属していました。

学部のおときは、アメリカンフットボール部でたくさんの仲間とぶつかり合いながらも協力し合い、長いようで短い中身の詰まった大学生活を送ることができました。

「部活にかけていた時間を研究に捧げます」と、口頭試問で豪語し大学院に進学しました。研究室も専攻内容もまったく違う研究室に進学したので、新しい人間関係や研究室生活に心機一転ワクワクしていたのを覚えています。

研究内容は社会情報学という分野で、地域社会におけるICT利活用の手法などの検討を行いました。

研究は実際の地域社会で行われ、さまざまな人と関わりながら研究を進めてきました。その地域社会で研究し執筆された論文には、私の研究室が研究を開始したのが2010年度と記載されていて、私が大学に入学したときから脈々と続く研究先との関係に感動したのを覚えています。

人材の不足や関心の低下、「地域」の課題は多くのメディアが取り上げるように存在していて、役員の方には何かを頼むのが恐縮なほどに忙しそうでした。そんな状況でも、予定を空けて打ち合わせしてくれたり、好意的に実証実験に取り組んでくれたり、頭が下がる思いばかりしてきました。そして協力的な地域の方のおかげで無事大学院を修了することができました。

私が幼い頃から父に言われていたことの一つに「俺が俺がの【が】をすてて、おかげおかげの【げ】で生きる」というものがありました。

この言葉は良寛という人が仏の恵みについて教えた言葉であると最近知りましたが、まさに私がこの6年間で学び思ったことはこの言葉に集約されると思います。

部活動では、家族や友人、OBOGの方、連盟、大学の方など支えてくれるたくさんの人のおかげで活動を継続することができました。

大学院では、研究フィールドとなる地域において長年培ってきた信頼関係のおかげで研究活動を行うことができました。

いままで送ったことのない初めての研究室生活に戸惑いながらも、同期や後輩、先輩たちのおかげで楽しく過ごすことができました。

これからの人生、人とのつながりをもっと大切に生きていきたいと思っています。



〈筆者・前から3列目一番右〉

特集① 平成27年度名古屋大学体育会 会長表彰 表彰式

平成27年度名古屋大学体育会会長表彰表彰式が、12月17日(木)に豊田講堂第1会議室において、名古屋大学体育会により挙行されました。
この表彰は、本学体育会に加盟するクラブが各種競技大会で優秀な成績を取った場合に、個人、団体及びその指導者の栄誉を讃え、その功績を広く顕彰することを目的としたもので、今回で27回目となります。



今年度は、「個人の部」9名、「団体の部」8団体が本学体育会会長である松尾総長から表彰され、1年間のめざましい成果を讃えられました。

受賞した個人及び団体には、副賞として名古屋大学校友会から記念品等が贈呈されました。



◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 平成27年度 名古屋大学体育会会長表彰 受賞者一覧 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

表彰対象期間：平成26年11月1日～平成27年10月31日

● 個人の部 (9名)

運動部名	氏名 (学部・学年)	該当賞	出場大会名及び成績
漕艇部	関根優佳 医学部(保)・4年	会長賞 会長賞	第70回 国民体育大会 ポート競技 成年女子 ダブルスカル 第4位 平成27年度 関西選手権 競漕大会 女子シングルスカル 優勝
フィギュアスケート部	二宮初音 経済学部・1年	会長賞	第9回 西日本学生フィギュアスケート選手権大会 兼 第88回 日本学生氷上競技選手権大会選考会 女子Cクラス 1位
ライフル射撃部	日下星野 理学部・3年	会長賞 会長賞 会長賞 会長賞	第87回 中部学生ライフル射撃選手権大会 10mエアライフル立射60発競技 優勝 第46回 国公立大学ライフル射撃大会 10mエアライフル立射40発競技 第1位 第46回 国公立大学ライフル射撃大会 10mエアライフル伏射60発競技 第1位 第46回 国公立大学ライフル射撃大会 10mエアライフル膝射20発競技 第1位
	千葉尚彬 情報文化学部・4年	会長賞 参考記録	第87回 中部学生ライフル射撃選手権大会 50mスモールボアライフル伏射60発競技 優勝 第26回 西日本学生ライフル射撃選手権 50mスモールボアライフル男子伏射60発競技 準優勝
航空部	中村早智 文学部・4年(既卒)	会長賞	第34回 東海・関西学生グライダー競技会 個人優勝
馬術部	内藤諒 経済学部・1年	会長賞	第50回 中部学生競技大会 総合馬術競技 個人第1位
ハンドボール部	池田幸陽 医学部(医)・4年	会長賞	平成27年度 東海学生ハンドボール 秋季リーグ戦 男子1部 得点王
陸上競技部	國司寛人 工学部・4年	会長賞	第81回 東海学生陸上競技対校選手権大会 男子10,000m 優勝
弓道部	魚住一郎 指導者(師範)	会長賞	名古屋大学弓道部を16年に亘り師範として指導し、弓道部発展のため貢献された

● 団体の部 (8団体)

運動部名	該当賞	出場大会名及び成績
航空部	会長賞	第34回 東海・関西学生グライダー競技会 団体優勝
馬術部	会長賞	第50回 中部学生自馬競技大会 総合馬術競技 団体優勝
フィギュアスケート部	会長賞	第9回 西日本フィギュアスケート選手権大会 兼 第88回 日本学生氷上競技選手権大会選考会 女子Cクラス団体 1位
ライフル射撃部	会長賞	第87回 中部学生ライフル射撃選手権大会 10mエアライフル立射60発競技 団体優勝 第44回 中部学生ライフル射撃三姿勢大会 10mエアライフル三姿勢3×20発競技 団体優勝
男子ラクロス部	会長賞	第23回 東海学生ラクロスリーグ戦 優勝
ソフトテニス部	会長賞	第54回 全国七大学総合体育大会 ソフトテニス 女子団体 第1位
体操部	会長賞	第54回 全国七大学総合体育大会 体操 男子団体 第1位
女子バレーボール部	会長賞	第54回 全国七大学総合体育大会 バレーボール 女子 連覇

特集② 第56回リーダーズ・アSEMBリー

実行委員長 熊澤美香(名古屋大学体育会)



昨年12月12日(土)、13日(日)の2日間にわたり、東海地区国立大学共同中津川研修センターにおいてリーダーズ・アSEMBリー(以下、「L.A.」)を開催しました。

L.A.とは、教育推進部と体育会の共催で行われる研修会で、体育会に所属するクラブの幹部または次期幹部を対象としています。今回で56回目を迎え、クラブの強化や幹部のあり方について意見交換し、親睦を深めることを主な目的としています。

1日目は昼前に到着し、開講式の後、昼食を取り午後から分科会を行いました。ここでは所属クラブに関係なく割り振られたチームに分かれて、新入部員の獲得や部員のモチベーションの上げ方などについて話し合いました。また、夜には懇親会を行い、分科会で同じチームにならなかったクラブの人と話したり、よりフランクな形で交流したりと親睦を深めることができました。

2日目は、午前中に1日目の分科会で話し合ったことをまとめ、チームごとの発表を行いました。各グループ発表内容は様々で、ひとりでは考えつかないような意見も多くありました。午後には本学総合保健体育科学センターの佐々木康教授に「大学スポーツ強化論」というテーマで講演をしていただきました。前半はトレーニングに関する最新の話についてお話いただき、後半では名古屋大学が主管校となる第56回全国七大学総合体育大会で優勝するためには、また、大会を盛り上げるためにはというテーマでグループワークを行いました。

今回のL.A.で得た情報を各クラブに持ち帰り、クラブの強化、そして目標の達成に向けて少しでも役立てていただけたら幸いです。

最後になりましたが、今回のL.A.を開催するにあたってご尽力いただいた関係者の皆様に、御礼申し上げます。



クラブ活動

剣道部

私たち剣道部は、一年から三年で三十人を超える部員と、週四日間(自主練日を含めれば週六日間)、稽古に励んでいます。合宿や遠征で体力・精神的に大変な日もありますが、学年を越えて剣道部として仲が良く、厳しくも楽しい日々を送っています。他大学との定期戦もあり、幅広い交友関係をもつこともできます。基本的に剣道経験者が多いですが、大学から始めた人もいますので、剣道に興味がある方は是非第三体育館に足を運んでみてください。部員は随時募集中です。戦績に関して、昨年度の七大戦で女子が優勝し、男子も東海地区で二部優勝を果たすなど、結果は徐々に出てきています。再来年度の七大戦は名大が主管校なので、男女で優勝を目指したいと思っております。応援よろしくお願ひします。



E.S.S.

E.S.S.は、主に英語を使って活動するサークルです。これだけ聞くととてもお堅いサークルのように感じられますが、実際は日本語も使いながら楽しく活動しています。

E.S.S.の活動は主に、昼ご飯を食べながら英語でおしゃべりするランプラ、英語の台本に基づき演劇をするドラマ、そしてある議題に関して賛成、反対に分かれて英語で討論するディベートの3つで、自分の好きなものに参加することができます。

E.S.S.の活動に参加すると、楽しく英語力を向上させられるだけでなく、他大生や留学生の友達も作ることができます。さらに他のサークルとの両立も可能です。国際的に活躍したい人も、ちょっとでも英語を話せるようになりたい人も、はたまた英語は少し苦手だという人も、まずはランプラに遊びに来てください。平日の昼休憩の時間にC20教室でお待ちしております。



トピックス

第52回須賀杯争奪駅伝競走大会 (強雨のため中止)

須賀杯争奪駅伝競走大会は、名古屋大学体育会と豊田工業高等専門学校学生会の共催で行われる駅伝大会です。これは、元名古屋大学学生部長(名古屋大学名誉教授・理学博士)の故 須賀太郎先生が豊田工業高等専門学校の初代校長に就任された際、両校のスポーツ振興を図ることを目的として、昭和39年(1964年)に始められた歴史ある大会です。

第1回大会が開催されて以来、第43回大会までは、豊田工業高等専門学校から名古屋大学までの約27kmを6区間に分けて行われていましたが、近年では交通事情等により名古屋市内の緑地公園に場所を変えて開催されています。

今年度第52回大会は、千種区平和公園を会場として去る11月14日に予定され、当日約200名の体育系運動部の学生が集合しましたが、雨あしが強まったことから、残念ながら開会式直前に中止の判断となりました。



須賀杯 (写真中央)



第50回記念プレート (写真中央)

教育推進部の窓

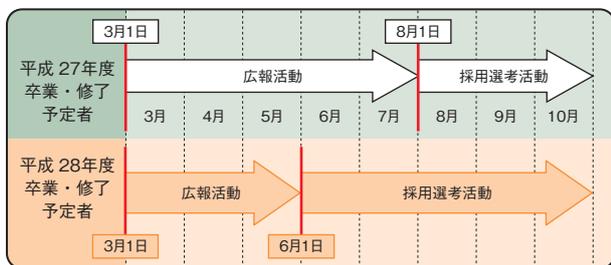
就職活動について

教育推進部学生支援課就職支援室

就職活動を開始した平成28年度卒業・修了予定の学生も多いでしょう。就職支援室では、就職活動の各段階に応じたガイダンス等を実施しています。ガイダンス等は、就職支援室ホームページ、就職支援メールマガジン、名古屋大学ポータル、及び各学部・研究科の掲示板で案内しますので、参加してみてください。また、専任相談員による就職相談も行っていますので、是非ご利用ください。

なお、平成28年度卒業・修了予定者からの就職・採用活動スケジュールが変更になりました。広報活動は、卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降に開始、その後の採用選考活動は、卒業・修了年度の6月1日以降に開始となります。該当する学生は、注意してください。

就職・採用活動時期の変更について



就職支援室・就職相談室の連絡先等

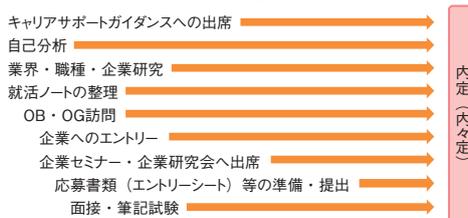
URL <http://syusyoku.jimu.nagoya-u.ac.jp/>
 MAIL s-shien.evententry@adm.nagoya-u.ac.jp
 TEL 052-789-2176

メールマガジンの登録

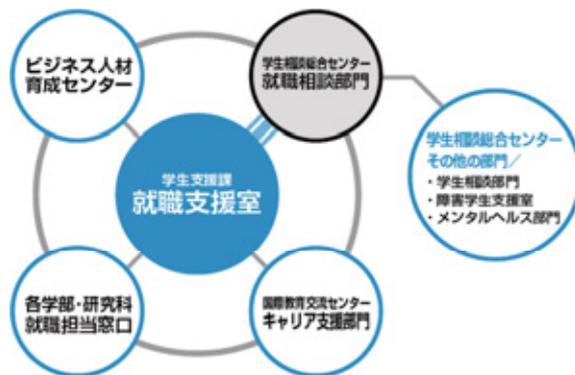
企業等就職ガイダンス、合同企業説明会、インターンシップ情報など、就活やインターンシップに役立つ情報をリアルタイムで配信します。登録は、下記URLから行ってください。

URL <https://portal.nagoya-u.ac.jp/>

就職活動の流れ (例)



本学の就職支援体制



教育推進部の窓

名古屋大学課外活動施設の利用案内

教育推進部学生交流課

本学には、一般学生及び教職員が利用できる施設として以下のような施設があります。施設の概要、利用方法詳細については、学生便覧に詳しく記載してありますが、不明な点があれば、学生交流課課外活動係（内線2164・2165）まで問い合わせください。

<運動施設>

運動施設には、総合運動場（陸上競技場、野球場、硬式テニスコート、フットサルコート等）、体育館、屋内プール等があり、総合保健体育科学センターの使用（授業、行事等）及び体育会所属運動部の使用時間を除いて利用できます。

利用希望者は下記により申し込んでください。

運動施設の名称	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 陸上競技場 ▶ 野球場 ▶ 硬式テニスコート ▶ フットサルコート ▶ 第1・第2・山の上体育館
申し込み開始日	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用月の前月 (第3月曜日17時以降)
使用願用紙の交付・提出場所	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 運動施設予約システム (名大ポータル→キャンパス→キャンパスライフ)

運動施設の名称	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 第3グリーンベルト
申し込み開始日	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用日の1か月前以降
使用願用紙の交付・提出場所	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 体育会事務室（学生会館2階）

運動施設の名称	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 屋内プール
使用可能日	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 一般学生のためのプール開放は夏季休業中の午後（日曜を除く）と授業期間中の決められた曜日（週2日程度）の授業終了後に行われます。これ以外の時間帯での一般学生のプールの利用はできません。プール開放の詳細については、総合保健体育科学センターホームページ (http://www.htc.nagoya-u.ac.jp/) をご覧ください。
手続場所	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 屋内プール



<学生会館>

学生会館には、談話室、集会室（9室）、和室（2室）があります。集会室又は和室を利用する場合は、学生会館事務室で使用許可願の用紙を受け取り、必要事項を記入し、許可を受けてください。



<中津川研修センター>

本センターは、自然豊かな岐阜県中津川市にあり、共同生活を通じて学生、教職員及び大学間の交流を図るとともに、課外教育等により大学教育の効果を高め、学生の人間形成に資することを目的に設置されています。

本センターには研修室や体育館が設置されており、また、センター周辺には中津川市等が管理するスポーツ施設や、妻籠宿、馬籠宿等の観光地が多数あります。

学生あるいは教職員の5名以上の団体で、4泊5日以内であれば本センターを利用できますので、研究室でのゼミ合宿、クラブサークルの合宿はもちろんのこと、リフレッシュや親睦を目的とした活動など、幅広い用途に積極的に活用してください。

なお、申請方法や利用料金等については、本センターのホームページを参照いただくとともに、不明な点は学生交流課課外活動係まで気軽にご相談ください。

ホームページURL

<http://www2.jimu.nagoya-u.ac.jp/nakatsugawa/>

教育推進部の窓

平成28年度学年暦について

教育推進部教育企画課

平成28年度の名古屋大学の学年暦は以下のとおりです。
 時間割表の変更、休講、定期試験の実施方法、学生への連絡事項等の案内、連絡は掲示板により必要の都度行われますので、十分注意してください。

■第1学期（前期）

4	月	火	水	木	金	土	日
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	

4/1~8 新入生ガイダンス等
 4/5 入学式
 ※4/11 第1学期授業開始日
 4/10~7/22 第1学期授業期間
 4/29 金曜開講授業用の授業予備日

5	月	火	水	木	金	土	日
						1	
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

5/1 名古屋大学記念日

6	月	火	水	木	金	土	日
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	

(6/2午後~6/5 名大祭)

6/25 木曜午後開講授業用の授業予備日

7	月	火	水	木	金	土	日
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

7/16 授業予備日
 7/18 授業予備日
 7/25~8/5 第1学期試験・授業期間

8	月	火	水	木	金	土	日
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

8/8~9/30 夏季休業

9	月	火	水	木	金	土	日
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	

9/26~30 G30新入生ガイダンス等
 9/27 秋季卒業式

■第2学期（後期）

10	月	火	水	木	金	土	日
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

10/1 第2学期授業開始日
 10/1~1/27 第2学期授業期間
 10/5 秋季入学式
 10/10 月曜開講授業用の授業予備日
 10/28 地震防災訓練

11	月	火	水	木	金	土	日
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

11/23 水曜開講授業用の授業予備日

12	月	火	水	木	金	土	日
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

12/23 金曜開講授業用の授業予備日
 12/26 授業予備日
 12/27 授業予備日
 12/28~1/7 冬季休業

1	月	火	水	木	金	土	日
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

1/10 授業予備日
 1/11 第2学期授業再開日
 1/13 休講予定(センター試験準備)
 1/14・15 入試センター試験
 1/30~2/10 第2学期試験・授業期間

2	月	火	水	木	金	土	日
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

3/27 卒業式

学生教育研究災害傷害保険制度

教育推進部学生支援課

みなさんが、講義、実験、実習、演習または実技などの正課中、各種学校行事中、学校施設内にいる間、課外活動中及び通学中などに不慮の災害事故により身体に傷害を被ることは、万全の注意を払っていても発生することがあります。

このような不測の事態の被害の救済のため「学生教育研究災害傷害保険制度」があります。保険料は極めて低額になっておりますので、未加入者は必ず加入するようにしてください。

本学では、平成24年度に59件の事故に対して、約315万円の

保険金が支払われています。

新たにこの保険に加入しようとする学部生（留年・休学により保険の期限切れとなっている学生）、大学院生、研究生などは、原則として4月または9・10月の各募集期間中に所属学部等の教務学生担当係で所定の手続きをしてください。

なお、すでに加入している学生で、この保険の対象となる事故が生じた場合、ただちに事故の日時、場所、状況、傷害の程度を所属学部等の担当係まで連絡してください。

＜医療保険金について＞ 医師の治療を受けたとき、治療日数により下記保険金が支払われます。

入院加算金については、1日から対象となります。	平常の生活ができるようになるまでの治療日数	支払保険金	入院加算金 (180日を限度)
正課中・学校行事中 (平常の生活ができるようになるまでの治療日数が1日から対象となります。)	治療日数 1日～ 3日	3,000円	入院1日につき 4,000円 (注)入院加算金は、医療保険金の支払の有無に関係なく入院1日目から支払われます。
通学特約加入者の通学中・学校施設等相互間の移動中 (平常の生活ができるようになるまでの治療日数が4日以上の場合が対象となります。)	4日～ 6日	6,000円	
	7日～ 13日	15,000円	
上記以外の学校施設内にいる間・学校施設外での課外活動(クラブ活動)中 (平常の生活ができるようになるまでの治療日数が14日以上の場合が対象となります。)	14日～ 29日	30,000円	
	30日～ 59日	50,000円	
	60日～ 89日	80,000円	
	90日～ 119日	110,000円	
	120日～ 149日	140,000円	
	150日～ 179日	170,000円	
	180日～ 269日	200,000円	
	270日～	300,000円	

(注)上記の保険金は、生命保険、健康保険、他の傷害保険、加害者からの賠償金と関係なく支払われます。

学研災付帯賠償責任保険制度

教育推進部学生支援課

① 保険の内容

日本国内外において、正課、学校行事等及びその往復で、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上支払わなければならない損害賠償を支払限度額の範囲内で補償します。

② 加入の対象者

学生教育研究災害傷害保険に加入している学生に限ります。

③ 対象となる活動範囲

Aコース 学生教育研究賠償責任保険（略称「学研賠」）

正課、学校行事、課外活動及びその往復。（Bコースの活動範囲を含む）

Bコース インターンシップ・教職資格活動等賠償責任保険（略称「インターン賠」）

インターンシップ、介護体験活動、教育実習、保育実習、ボランティア活動及びその往復。但し、学校が、正課、学校行事、課外活動として認めた場合に限る。

Cコース 医学生教育研究賠償責任保険（略称「医学賠」）

医療関連学部・学科の正課、学校行事、課外活動及びその往復。（Aコース、Bコースの活動範囲を含む）

Lコース 法科大学院学生教育研究賠償責任保険（略称「法科賠」）

対人・対物賠償：法科大学院等の正課、学校行事、課外活動及びその往復。（Aコース、Bコースの活動範囲を含む）
人格権侵害補償：臨床法学実習による不当行為に起因する事故。

④ 補償金額（支払限度額）・保険料

活動内容	Aコース	Bコース	Cコース	Lコース
補償内容	学生教育研究賠償責任保険 （略称「学研賠」）	インターンシップ・ 教職資格活動等 賠償責任保険 （略称「インターン賠」）	医学生教育研究 賠償責任保障 （略称「医学賠」）	法科大学院学生教育研究 賠償責任保険 （略称「法科賠」）
対人賠償 対物賠償	対人賠償と対物賠償合わせて1事故につき1億円限度（※免責金額0円）			
人格権侵害賠償				損害賠償請求者1名あたり 1,000万円限度 （※免責金額0円）
保険料分担金（1年間）	340円	210円	500円	1,640円

※免責金額とは、自己負担額をいいます。

<対象となる事故例>



- ① 正課で化学の実験中、間違っ
て薬品を混ぜ、爆発事故を起
こしてしまい、クラスメイトに
火傷を負わせてしまった。
（A・C・Lコース対象）



- ② 学園祭で、焼鳥屋の模擬店
を出店したが食中毒事故を出
してしまい、5人が入院してし
まった。
（A・C・Lコース対象）



- ③ 正課でのインターンシップ活
動中、派遣先の機械を使用し
、誤って壊してしまった。
（A・B・C・Lコース対象）



- ④ 授業を受けるために自宅から
大学へ行く途中、駅の階段を
駆け降りたとき、誤って前に
いた老人にぶつかってしま
い、大けがをさせてしまった。
（A・C・Lコース対象）

学研災付帯学生生活総合保険

教育推進部学生支援課

学研災付帯学生生活総合保険は、学生教育研究災害傷害保険加入者を対象に、病気・ケガの入院・通院が1日目から補償される等の特色のある学生生活全般に補償を広げた保険です。加入は任意加入となっています。

補償内容・加入方法については、「学研災付帯学生生活総合保険パンフレット」を参照してください。

災害対策

災害に強い住まいと暮らし

◆ 安全・安心な生活にするチャンス

入学、進学や就職など、新しい生活を始める人が多い季節です。新しい環境に対応して順調な生活になるまで忙しいでしょうが、この時こそ安全・安心について考えるよい機会です。東海地域は特に地震災害が危惧される地域です（南海トラフ地震について学園だより前号の記事を参照してください）。また、1959年の伊勢湾台風や2000年の東海豪雨など気象災害も多発しています。自分の生活の場でこのような災害が起こることをイメージして対策を行うようにしましょう。

◆ 住む場所の災害危険度を知ろう

住む場所を決めるときに、学校・職場までの交通、生活の便利さ、そしてコストなどを考えることが多いですが、災害の可能性や防犯などにも注意してください。これは様々な方法で調べることができます。

まず、自治体などが出している資料に注目してください。自然災害については、国や県・市が大規模災害を想定した被害予測や、より具体的な被災可能性を示したハザードマップを作成しています。地震であれば震度、液状化危険度、津波高さや到達時間など、気象災害では河川の氾濫などが地図で示されています。また、地形に注目することも有効です。名古屋市の中心部は熱田台地で少し高くなっており、地震や水害に比較的強い場所です。東部の丘陵地域もよいのですが、谷やため池を埋めたところ、傾斜地を造成したところなど、狭い範囲で地盤条件が悪いところがある点は要注意です。

◆ 建物と室内の安全確保は最も重要

建物の耐震基準は1980年に改正されました。それ以前に建てられた建物は、地震に対する強度が十分でないことが多く、35年以上たつて老朽化も進んでいます。住む家を選ぶときには、できれば古い建物は避けるか、耐震診断・補強がされていることを確認しましょう。また、室内の安全対策は住む人の責任ですので必ず実施してください。賃貸住宅では壁などに穴をあけにくい場合がありますが、背が高く重く倒れやすい家具を避け、落ちたり壊れたりするものを整理し、通路や出入口をふさがないようにするなど、できるだけ危険を減らすようにしましょう。

◆ 災害に強い暮らしのために

災害が起こる前に行う「準備」が最も効果的です。建物と室内の安全のほかに、食料や水など災害時の生活をイメージして大切なものをそろえましょう。タイムリーな「情報」も欠かせません。気象警報や緊急地震速報はスマホでも受信できますし、災害時にはラジオも重要な情報源になります。家族や友人との連絡方法も決めておきましょう。そして災害についての正確な「知識」は、冷静に身を守る判断をするために重要です。このようなことは、日本では子供のころから繰り返し身に着けているはずですが、これから東海地域で学生生活や仕事をするにあたって、改めて確認しましょう。減災連携研究センターおよび災害対策室のホームページなどもご覧ください。



伝言板

学生証は大切に

教育推進部教育企画課

最近、学生証紛失による再交付の申請及び磁気不良の修正が増えています。学生証は本学の学生であることを証明するものであるだけでなく、在学証明書等の発行や中央図書館への入館等にも必要です。

万一紛失したり盗難に遭ったりした場合は、必ず警察へ届け出てから、所属学部教務学生係等にて再交付の手続きを行ってください（有料）。紛失した学生証で、消費者金融の無人契約機・レンタルビデオ店等で悪用され、思いがけない迷惑や被害を受けることもありますので、十分注意してください。

自転車の盗難防止・走行上の注意について

教育推進部教育企画課

学内において、自転車盗難の犯罪が増加しています。駐輪する際は短時間であっても必ず施錠をし、鍵も二重ロック（ツーロック）にしてください。自転車窃盗犯の約70%がツーロックされている自転車は盗まないと断言しています。

なお、当然のことですが、他人の自転車を無断で使用する行為は犯罪行為です。自転車の窃盗は刑法第235条の「窃盗罪」であり、10年以下の懲役・50万円以下の罰金が科せられます。警察に検挙された場合、必ず書類送検され、さらに本学からは学則に基づき懲戒処分が課せられることがあります。絶対に行わないでください。

また、自転車走行上の注意として、東山キャンパス周辺は坂の多い地形ですので、特に下り坂でのスピードの出し過ぎや一時停止の無視等により、歩行者や他の車両との事故を起こさないよう、十分に注意してください。たとえ自転車でも、歩行者に接触すると命にも関わる大事故につながりかねません。周囲に配慮した、優しい走行を心がけてください。

ゴミ出しマナーはルールを守って

教育推進部教育企画課

名古屋市では、各家庭から排出されるゴミは、種類毎に分別し、種類毎に指定された曜日・場所に出すことになっています。

名古屋市内で単身で下宿生活を送っている学生は、地域の一員としてこのゴミ出しルールに従い、ルールとマナーを守ってゴミを出すようにしてください。分別していないゴミは、処理できず放置される原因にもなります。

ゴミの出し方（種類の分け方）が判らないときは、各区の環境事業所、または町内会の保健委員の方に尋ねるようにしてください。

なお、学内に家庭ごみや粗大ごみを持ち込んで投棄することは、不法投棄ですので絶対に行わないようにしてください。本学では、不法投棄を発見した場合、警察への通報などの対応を取っています。

平成27年度名古屋大学学生生活広報担当グループ〈主査〉藤村 逸子 〈委員〉佐々木 重洋・久本 直毅

【本誌に対するご意見等は下記までお寄せください。】

教育推進部学生支援課就職支援室 Tel.052-789-2176/Fax.052-747-6543

| 次回の発行予定:平成28年7月 |